

NGF 若手懇談会の本年度の活動について

NGF 若手懇談会会長

水 口 雅 史

Activity of NGF young meeting in this year

Masashi Mizuguchi

Chairman of NGF young meeting

若輩者の私が執筆などとてもない話なのだが、お世話になっている方からの依頼だったので受けることにした。読者の方々は是非ともこの記事は文章ではなくただの模様だと思っていたきたい。さて、この記事では今年の活動内容について紹介させていただく。

今年度の若手懇談会は昨度前からの流れをそのまま受けた活動になる。

まず講演会について。講演会回数と1講演会での講演数は、年4回・1講演会に3講演である。既に2月14日に平成14年度第1回の講演会が行われ多数の参加をいただいた。詳細はホームページ（<http://www7.big.or.jp/~agi19786/ngf/bukai/bukai1/index.html>）に載っているので参考にしていただきたい。先生方のご尽力のたまものであるが、どの講演もすばらしく盛況のうちに終わることができた。（この場を借りて、改めて関係者の方々に感謝の意を表したい。）今後、4月25日に第2回講演会を行う。企画は（3月時点で）既に決定しており、講演の手配は済んでいる。第3回講演会では7月頃に筑波にあるナノガラスプロジェクトを見学する予定である。例年通りだと

宿泊付きの見学会なのであるが、宿泊付きでは参加を敬遠する方が多数出ると思い日帰りの見学会にすることとした。そして第4回講演会は10月頃に執り行う予定で、内容は未定である。もしこんな講演を聞きたいという希望があれば、今からでも遅くないのでメールかファックスをいただきたい。取り入れられるものは積極的に検討していきたい。第4回講演会の同日直前に総会を行い、今年度の活動報告及び来年度への引継を行い、今年度の活動は終了する。

1年の予定を簡単に書いてはみたが、無事にすべての講演会を行える保証はない。みなさまの協力・参加がないと会の運営はできないので、少しでも興味をお引きの講演があったときには1講演だけでもいいので参加していただきたい。会を企画する側の切なる願いである。

そして、本年度もう一つ行おうとしていることがある。それは規約の改定である。その経緯と目的について簡単に触れてみたい。

昨年度から前会長のもと活動内容に若干の変更がなされた。それは、まさしく、上記の講演会の回数と講演の数である。年6回2講演から、年4回3講演になったのである。そのように決まるまでには多くの議論が行われたようであるが、昨年の活動しか知らない私にとってのも後者の方が好ましい。理由は1講演会の密

〒228-0828 相模原市麻溝台 1-10-1
TEL 042-740-6305
FAX 042-740-6347
E-mail: mizuguchi.m@nikon.co.jp

度が高い方がよいことと、役員の負担の軽減である。現役員も全員この方が良く考えたので、本年度もこのままの形で継続することにした。また、その他にもいくつかの変更点があった。会費が 3000 円から 4000 円に、そして、講演者の先生方に謝礼をお支払いすることにした。そもそもボランティアで行っているこの若手懇談会ではあるが、講演者の先生方は役員以上に一層労力を費やして講演の準備をしていた。その先生方に交通費ぐらいでもというちょっとした気持ちである。

このように活動内容に変更を加えたのであるが、ここで問題が発生した。規約の内容が変更されていないのである。来年度以降若手懇談会の役員になる方々が懇談会を実施していく上でも、今年のように規約を改定したいというのがその目的である。

改定点は主に 2 点である。会費と役員の数の変更である。会費は 3000 円と明記されているので変更の必要がある。役員の数も明記されている。しかし、現在役員会は明記された人数よりも一人少ない人数で構成されており、今後とも人数を確保できないことがしばしば起こると考えられる。この点について改訂方法を二通り

考えている。人数を一人少なく明記するという方法と、現在の人数そのまま不足の場合やむ無しという但し書きを加えるという方法。どちらにするかは役員会で議論を進めたい。ちなみに、(幸運にも?) 講演回数に関する記述はなく、上記のような講演回数の変更において規約改定の必要はない。

規約の改定は、総会において決定される。もし、この記事をお読みの方で会員の方がいらしたら、今のうちから規約改定の是非について熟考していただきたい。考察の過程で生じた疑問や意見などは、議論の重要な材料になるので、ご面倒でもお伝えいただきたい。また、総会で是非を問うのでその心づもりをしておいていただきたい。

こちらの赴くままにキーボードを打ってきたが最後に一言。役員になって大変なことも多いが、このような会で勉強する機会、他社や大学の方とお話をできる機会があることは自分にとって非常に良い経験である。若手懇談会は、若手(自称若手も含む)の集まるほのぼのとした集まりである。参加を希望する方は気楽に講演会を覗いていただきたい。